

総務常任委員会

委員長 小川尚一

平成27年度南相馬市一般会計予算について

質疑 歳出では、再生可能エネルギー導入促進事業の中に、脱原発都市宣言に係る看板経費が入っているが、具体的な経費の内容と執行予定時期については。

答弁 1カ所当たり17万7千120円、市役所それから各区役所に設置する予定となっております。合計で53万1千360円の予算。執行時期については、平成27年4月を予定している。

質疑 脱原発都市宣言について、現状は執行部としては議会の理解と合意は得られたという判断なのか。
答弁 脱原発については、基本的に議会で今までに2回ほど議決をしている。「浪江・小高原子力発電所建設を中止し、福島県内すべての原子力発電所の廃炉を求める決議」と、「原発再稼働に反対する意見

書」がでており、全ての原発を稼働させるなどという決議をしている。そういう意味では原発の廃炉、再稼働反対については、基本的に考えは一致している。脱原発については、議会も含め被災を受けた南相馬市は、一つになつていこうと考えている。

質疑 災害記録誌増刷事業の、災害記録誌については、平成24年度決算審査特別委員会の中で、今後評価を受ける、あるいは順次その後の編さんを続けるという答弁があったが、認識は。
答弁 決算では、「増刷すべきだったのではないのか」「市民全員に配布するようなことは検討しなかったのか」という質疑があり、ホームページ等で、市民が閲覧できるように環境づくりは進めてきたが、評価についての会議は、これまで1回だけである。昨年11月

7日に、原町区長連絡協議会会長から、心や市民の防災意識を内面から補填するものとして、記録誌を最低でも一世帯一冊ずつ配布すべきとの要望書があり、別冊の議論もあったが、まずは増刷という考えに至った。「今後毎年、経過についてはまだ震災途上ですから、まとめて発行していく」としているが、対応を伺う。

答弁 毎年発行されていかないことはお詫びする。早急に対応できるように、チームを編成しながら編さんできるように努めていく。
質疑 毎年作ると第2版は、補正で行うことになるが、今回の増刷をやめては。
答弁 新年度の予算措置は、区長会からの要望に基づいた災害記録誌増刷である。その後の災害記録の編さんも、今後、しっかりと全庁挙げて編さんしていく。

質疑 復興拠点施設の基本設計は、暮らしやすい、商売のやりやすい、そういう施設設計となるのか。
答弁 基本的に財源的な

部分もあり、施設はできるだけ既存施設を利用できないかという部分も十分踏まえ、制度設計をしていく。また、利用者の融通がきくような施設整備が必要であり、できるだけワークショップや、多くの皆さんから声を聞きながら、利用しやすいような制度設計にしていく。

質疑 広域消防鹿島分署整備事業について、設計、地質調査業務等の他に、場所の検討状況は。
答弁 早期整備が可能な場所、水害等の災害への備え、市街地からの距離、必要面積などを総合的に判断し、広域消防及び市関係課と協議を経て、鹿島生涯学習センターの市有地を移転建設候補地として選定した。

質疑 質疑終了後、委員から災害記録誌増刷事業の予算額1千54万8千円を減額修正する案が提出された。
討論 災害が起きて4年になる。その直後の記録がされている南相馬市災害記録誌は、市民と共有するところが、これからの市民の防

常任委員会審査

災害意識の向上に繋がりに、災害復旧と復興そして発展していく過程の、一番基になる情報であると考え、全世帯に配布する主旨の増刷に賛成し、修正案に反対。一方、既にその増刷するものが発行から2年経っており、毎年発行することは、区長会の方々も知らなかったと思われる。今後のスケジュール等も、全く整理がつかない状況を考えて、このまま増刷するべきではないと考え修正案に賛成。

採決の結果、賛成多数で修正案可決、修正案を除く原案を可決。



「脱原発都市」の看板が設置される市役所入口

文教福祉常任委員会

委員長 奥村健郎

平成27年度南相馬市一般会 計予算について

質 疑 防犯カメラ設置による市民の利益と、撮影される不利益の整理はされたのか。

答 弁 犯罪抑止に有効と考える。設置場所は警察署等と協議してきたが、人権、プライバシー等を充分考慮し、今後運用方針を詰めていく。

質 疑 鹿島区子ども遊び場について、地域意見の取り纏め状況は。

答 弁 地域協議会で4回協議をした。内容は場所選定が主な議題であり、詳細の議論はなされていない。また、小中学校のPTAとの協議では、施設は大体800㎡程度の規模で、詳細は地域の意見を聞き、詰めていく。

質 疑 避難している母子の健康管理は、どう対応しているのか。

答 弁 出生の状況を把握

しており、出生1カ月半から2カ月後に連絡し、避難先でのサービスが利用できているか確認している。

質 疑 日本トップレベルの学力を目指しているが、目指すメッセージがどの事業に込められているのか伺う。

答 弁 問題に立ち向かい生きる力や郷土愛を持った子どもたちを育成する。具体的には、ICT活用教育推進事業や基礎学力向上対策事業などの事業を構築した。

質 疑 出前講座の利用状況から、全身運動が楽しめる施設整備が望まれるが如何か。

答 弁 仮設住まいの方もいる中で、この出前講座の利用をさらに伸ばしていきたい。

また、施設の必要性から、鹿島体育館の整備やパークゴルフ場の整備等、スポーツ推進計画の中で必要性を

うたっている。
審査の結果、原案通り可決。

南相馬市深井戸の無償貸付及び譲与に関する条例制定について

質 疑 必要性は認めるが、放射線への恐れだけでの線引きにより、対象と対象外の整理をどう考えるのか。

答 弁 小高区での水道普及率は51%、残りが井戸水。救済の手を差し伸べないと、今後の帰還率、ひいては小高区の存亡にもかかわってくる。また、条例対応できない部分は、運用基準や規則等で詳細を定める。

審査の結果、原案通り可決。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する条例制定について

質 疑 教育長と教育委員長が一本化され特別職になる。教育振興基本計画や市の独自性を出していくことへの影響をどのように想定しているのか。

答 弁 首長が総合教育会議を設置して招集、その中

で大綱の制定をする。この大綱は、基本計画を当ててもよく、首長と政策的に連携を図った中で計画が推進されると考えている。

審査の結果、原案通り可決。

平成27年度南相馬市育英資金貸付特別会計予算について

質 疑 奨学金の借り手が減っているが、就学支援の今後のあり方について検討が必要ではないか。

答 弁 要因は、賠償や各大学が実施する被災地支援など、様々考えられる。今後の就学支援のあり方について、検討を進めており、給付型の支援や、就職で本市へのUターンを促す対策なども吟味しながら検討していきたいと考えている。

審査の結果、原案通り可決。

平成27年度南相馬市病院事業会計予算について

質 疑 脳卒中センター開設時の医師確保、看護師確保の見通しは。

答 弁 脳卒中センター開設には、医師が3名必要だが、既に4名を確保済み。

看護師確保は、最終的に270床を目指す。それに必要な看護師はまだ不足している。開院時期にすべて確保は困難だと思っており、数年かけて充足させる。

質 疑 小高病院について、入院診療の必要性の有無など、今後どのような検討を行うのか。

答 弁 地域包括ケアも含め、今後の検討に当たっての判断材料を提示する。入院診療も検討課題として捉えているが、基本的には地域包括ケアを考えている。

審査の結果、原案通り可決。



脳卒中センターの着工が待たれる市立病院